

令和7年度（2025年度）第1回 豊中市食育推進部会議事録

1. 日 時：令和8年（2026年）2月16日（月）14時00分～15時15分
2. 場 所：豊中市立地域共生センター 会議室3・4（オンライン併用会議）
3. 案 件
 - ①豊中市健康づくり・食育推進計画の進捗状況について
 - ②各課の食育の取組み報告
 - ・健康推進課
 - ・花と緑のネットワーク
4. 出席者（敬称略）
 - (1) 委員（名簿順）：9名（委員数12名）
 - ・江上 ひとみ（梅花女子大学）
 - ・林 宏一（武庫川女子大学）
 - ・笹部 努（（一社）豊中市歯科医師会）
 - ・濱中 力（（一社）豊中市薬剤師会）
 - ・小池 由久（豊中商工会議所）
 - ・谷口 梢（豊中市PTA連合協議会）
 - ・西村 裕（とよなか市民環境会議アジェンダ21）
 - ・中川 敏志（市民）
 - ・濱田 恭介（市民）
 - (2) 豊中市食育推進部会設置要綱第5条に基づく関係者：1名
 - ・高島 邦子（とよなか市民環境会議アジェンダ21）
 - (3) 傍聴者：0名

議事概要

○開会 14時00分

■案件① 豊中市健康づくり・食育推進計画の進捗状況について

【事務局から資料1、資料2を用いて説明】

【質疑応答】

委員	計画全体の取組みについて、7つの分野の中で「こころの健康・つながり」が最もうまくいかなかった事業が多かったように理解したが、具体的にどういった部分がうまくいかなかったのか、また、今後どのように取り組む予定なのかを具体的に教えていただきたい。
事務局	計画全体でC評価が最も多かったのが「こころの健康・つながり」だった。事業を担う人材の不足や事業の周知が不十分で市民に浸透しきれていなかったといった点が課題として挙げられている。対応策としては、事業の周知についてはSNS等を活用して広報に力を入れること、担い手不足については、担い手になりたい方を受け入れる体制整備を進めていく必要があると担当課から報告を受けている。
委員	栄養・食生活分野の「行政等の取組みテーマ」について、「b.心身の健康につながる食生活」と「d.持続可能な食」とはどういった取組みのことか。
事務局	「b.心身の健康につながる食生活」は主に大人の健康づくり、「d.持続可能な食」はSDGs、循環型の社会、健康づくりの食を支える環境づくりに関するテーマ設定となっている。

■案件② 各課の食育の取組み報告

【事務局から資料3、資料4を用いて説明】

【関係者から資料5を用いて説明】

【質疑応答】

部会長	花と緑のネットワーク会議は、食育推進部会の前身である食育推進協議会においても、素晴らしい取組みをご報告いただいていた。食育というと、野菜を食べなさい、塩をひかえましょう、たんぱく質をとりましょう、といった話になりがちだが、食の問題を環境の問題などから広くとらえること、人間は人間だけで生きている訳ではないということ
-----	---

	<p>をあらためて教えていただいた。食育の視点からも活動は素晴らしいと感じている。</p>
委員	<p>行政の取組みについて、アンケートの結果を踏まえた取組み、フレイルリスクの高い方に案内を出していることは素晴らしい活動だと思った。減塩に関するポスターの「それでもラーメンの汁、飲みますか」というキャッチフレーズについて、スープを売りにしている飲食店もあるため、ラーメンが悪者に見えてしまうのではないかと気になった。</p>
事務局	<p>ポスターについては、保健所公式 X で発進したが、現時点で特にご意見はいただいている。来年度ポスター印刷を検討しているが、いただいたご意見も踏まえた上で検討したい。</p>
委員	<p>味噌汁も汁を残した方がよいのか。</p>
事務局	<p>ラーメンも味噌汁も汁を残すと減塩になるが、飲む頻度によって対応方法も変わってくる。味噌汁の場合は具沢山にするといった対策をとれ、また、飲む頻度が低い人は、汁を全部味わっていただくこともできるかと考える。</p>
委員	<p>1日分の塩分摂取量で考えるものと思うので、塩分が多いと感じた食事があつたら1日の中で調整するといった啓発にすればよいと思う。</p>
委員	<p>マイクロプラスチック、ナノプラスチックはペットボトルというイメージが強かった。各家庭で使うスポンジがいつしか減っていついてというのは下水道を通じてマイクロプラスチック、ナノプラスチックの素になるため、ヘチマといった自然のスポンジを使用するといった点が勉強になった。</p>
関係者	<p>プラスチックは50年100年200年といつまでも残る。医療にとってプラスチックは大事だと思う。プラスチックが悪者ではなくて、例えば、ペットボトルではなく、お茶を自分でわかして飲むといったように、少し不便でも私たちが台所でできることを少しでもやっていけたらと思う。共働きで忙しいご家庭が多いとは思いますが、お茶がわくの待つ、誰かにいれてもらったお茶を味わう、といったゆっくりとした大事な時間があってもよいかと思っている。</p>
委員	<p>健康づくり・食育推進計画は10年を超える計画期間だが、健康づくりや食育を推進していくにはこれくらいの年数が必要と理解したらよいのか。</p>
事務局	<p>計画期間は、国の健康日本21（第3次）の計画期間12年に基づいており、健康寿命の延伸を目指すには、中長期での効果検証が必要と考えている。ただし、現在国で指標項目のベースラインや目標値を見直して</p>

	<p>いるところであり、計画中間年に計画全体の間見直しも予定している。今後の少子高齢化や社会環境によって健康に関わる要素も変わる可能性があり、国の方針や豊中市民の健康状態などを踏まえて見直していく必要があると考えている。</p>
部会長	<p>2月12日に最新の学校保健統計が文部科学省から公表され、小児のう歯の者の割合が過去最低まで下がってきた。学校の子どもたちの口腔の状態についての現状を伺いたい。</p>
委員	<p>今の50代が子どもであった1960年～1970年ごろは「むし歯の洪水」と呼ばれ、10本20本のむし歯があったが、現在は児童1人あたり1～2本と子どもの口腔内の環境はととも良くなっている。一方、高齢者は、脳梗塞、心筋梗塞、糖尿病などがあると、歯垢や歯石にジンジバリス菌という血液を餌にする凶悪な細菌がいることがわかっている。この菌は、口腔内の状態が悪いと静脈から少しずつ動脈に移動して血管壁に付着してこぶをつくって血管閉塞を起こす。20～30年かかって発症するこれらの病気を減らすために、特に高齢者の口腔ケアや口腔内の清掃を推進している。</p>
部会長	<p>食と口腔の健康は切り離せない問題と考える。</p>
委員	<p>とよなか市民環境会議アジェンダ21については、桜井谷小学校で行われているこども教室の「ツバメのねぐら入りの観察」で知った。桜井谷小学校は、田んぼや畑があり、5年生は田植えから稲刈り、脱穀、藁打ちまでの良い体験ができる。中学校では給食センターでなく業者の弁当となり、ごはんが冷たくおいしくないため、給食の残飯が非常に多いと聞いている。子どもたちも残すことを気にしており、そのような状況が気になったため、今回食育推進部会の委員に立候補した。歯の健康に関しては、フッ素塗布や定期健診に通ったり、矯正している子どもも多く、関心の高い親が多いが、食に関しては十分ではないと感じている。子どもにとって食はとても大切だと考えている。少しでも子どもたちの食環境がよくなればと思う。</p>
事務局	<p>昨年度の食育推進部会では、学校給食課からの報告があった。栄養教諭や学校給食課の栄養士の取組みにご期待いただきたい。</p>
委員	<p>案件1 たばことアルコールに関する事業について、小中学校での乱用防止教室以外に何か事業があるのか。</p>
事務局	<p>たばこについては、健康推進課にて禁煙したい人への支援、禁煙治療実施医療機関への調査、飲食店での標識掲示の調査、路上喫煙禁止区域についての取組みなどを実施している。</p> <p>アルコールや薬物については、保健所にて、アルコール依存症の方へ</p>

	の支援やお薬講座などを実施している。薬剤師会の先生方にも引き続きご理解ご協力をお願いしたい。
委員	飲食店で喫煙に関する標識の掲示を見たことがある。先日の健康展を契機に、4月ごろに学校薬剤師を対象に、断酒会による依存症当事者の講演企画を進めている。
委員	<p>とよなか市民環境会議アジェンダ 21 の報告について、食べものの大切さを体験から学ぶことができる貴重な取組みと感じた。日本は食品ロスは減ってきているがまだ多い現状がある。昨年度、学校給食課から食品ロスについての報告があったが、横のつながりを持ちながら進めていることがとてもよいと。今後も是非進めていただきたい。</p> <p>健康推進課の取組みについて、塩分と健康に関するアンケート調査結果では、アンケートの前後比較で減塩意識の向上がかなりみられていた。意識の向上はとても重要で、そこから行動変容、健康の変化につながっていくと考える。今後も関心のある層だけでなく関心のない層にも、例えば今回のラーメンの汁に関するポスターのようなインパクトのあるメッセージも活用しながら、市民の健康につながるような取組みを、行政・関係機関が同じ方向を向いて進めていってほしい。</p>
部会長	本日の意見については、保健医療審議会に部会長から報告する。報告内容は、部会長の一任としてよろしいか。
一同	異議なし。

○閉会 15時15分